



中村 稚菜ちゃん  
杉久保、中村正・美由紀さんの2女=1歳



穂元 あゆちゃん  
大谷、穂元弘樹・千恵子さんの2女=1歳2カ月



茶園 陽樹ちゃん  
上今泉、茶園繁樹・恵美さんの長男=1歳1カ月



三輪 広翔ちゃん  
杉久保、三輪徹・はるみさんの長男=1歳



竹下せいらいちゃん  
今里、竹下一彦・かおりさんの2女=1歳1カ月



寺平 愛菜ちゃん  
東柏ケ谷、寺平邦宏・朋子さんの長女=1歳2カ月



松岡 亜美ちゃん  
柏ケ谷、松岡良成・明子さんの長女=1歳



内田 雅子ちゃん  
門沢橋、内田幸司・貴子さんの長女=1歳

まんまる赤ちゃん



◀「リサイクル」でおひなさま  
2月16日、リサイクルプラザで使用済みフィルムケースを使ったひな人形作り教室が行われ、参加者は物品再利用の作業を通して一足早いひなまつり気分を楽しみました。

フオトピックス

▶ポスターで緑化をアピール  
市内小中学生から募集した緑化ポスターコンクールで、第1次審査を通過した作品の展示が2月14日まで行われ、市役所エントランスホールを会場に、多くの方々へ緑の大切さをアピールしました。



▼大谷歌舞伎が東京公演!

江戸開府400年記念「地芝居シアター」が、2月16日東京墨田区の江戸東京博物館で行われ、神奈川県代表の大谷芸能保存会演じる「菅原伝授手習鑑」が、400人を超える観衆を魅了しました。



みなさんからの作品

海老名の冬風景

▷場所 河原口  
①▷撮影日 1月3日  
河原口在住・下田政雄さん撮影



▷場所 大谷神明社  
①▷撮影日 1月13日  
大谷在住・三部初夫さん撮影

今月のプロフィール

「巨大イチゴ」で優秀賞

せいだ こうじ  
清田 浩志さん



培養中のイチゴ苗を手に

経営変える「看板商品」に  
県下一の産出量を誇る海老名のイチゴ。市内ではこれからが最盛期です。実家がイチゴ農家でその後継者を目指す清田浩志さん(本郷)は、この春県立中央農業高校を卒業する18歳。清田さんは在学中、重さが通常の2倍、胴回りが1.5倍というジャンボイチゴの開発に成功しました。その成果は新聞社主催の「毎日農業記録賞」で認められ、去年11月、高校生では全国で2人だけという優秀賞を受賞しています。  
イチゴ農家の現状を「労働時間の約6割が収穫・出荷時期に集中し、特に収穫は手作業で腰を曲げ続けるつらい仕事。お客さんが収穫を行うイチゴ狩りに転換すれば、重労働が大幅に減少するのは」と分析した清田さん。「入園料が収入のイチゴ狩りは、多くのお客さんに来てもらわなければ経営できない」と考え、看板商品とするためジャンボイチゴ作りを思いついたそうです。

本郷に上郷には鳩川の桜並木や外記河原など歴史的大きな話が多い。来年度には一部が使用開始する予定の三川緑地公園も新名所に

編集後記

なるはず：迷った結果、今回は意外とその実態を知られていない水道路をクローズアップしてみました。いかがでしたか? (大)